



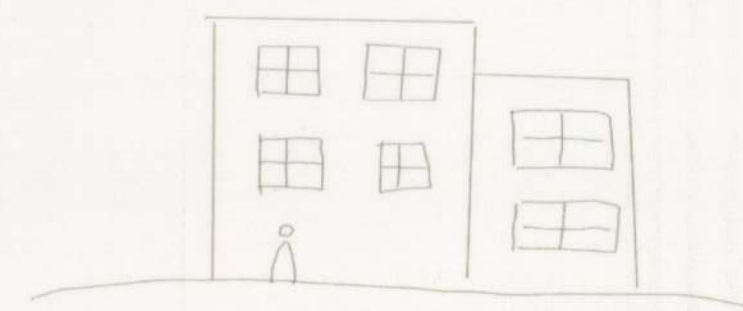
地形に暮らす

地形がつくる
ちょうどいい距離感の集合住宅

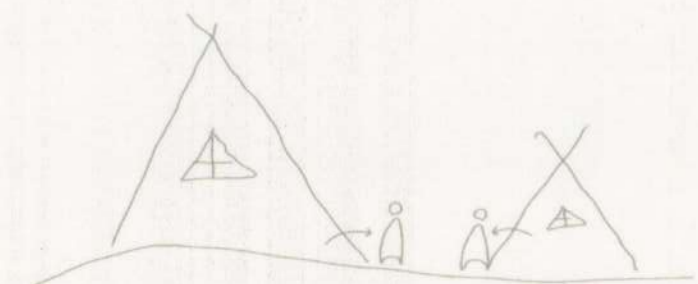
01 コンセプト

この集合住宅は、山、海、道、川から流れこむ人の動きによって少しずつ削られるように形づくられた。。地形に寄り添って暮らすことで、住人だけでなく同じ街に暮らす他者とも無理なく寄り添うようになる。人はこの建物を通り、すれ違い、立ち止まりながら、知らないまま他人になる前に互いの気配を感じる。
この集合住宅は管セする建築ではなくこれからも重なり、更新され続ける暮らしの地形になる。

02 昔と今

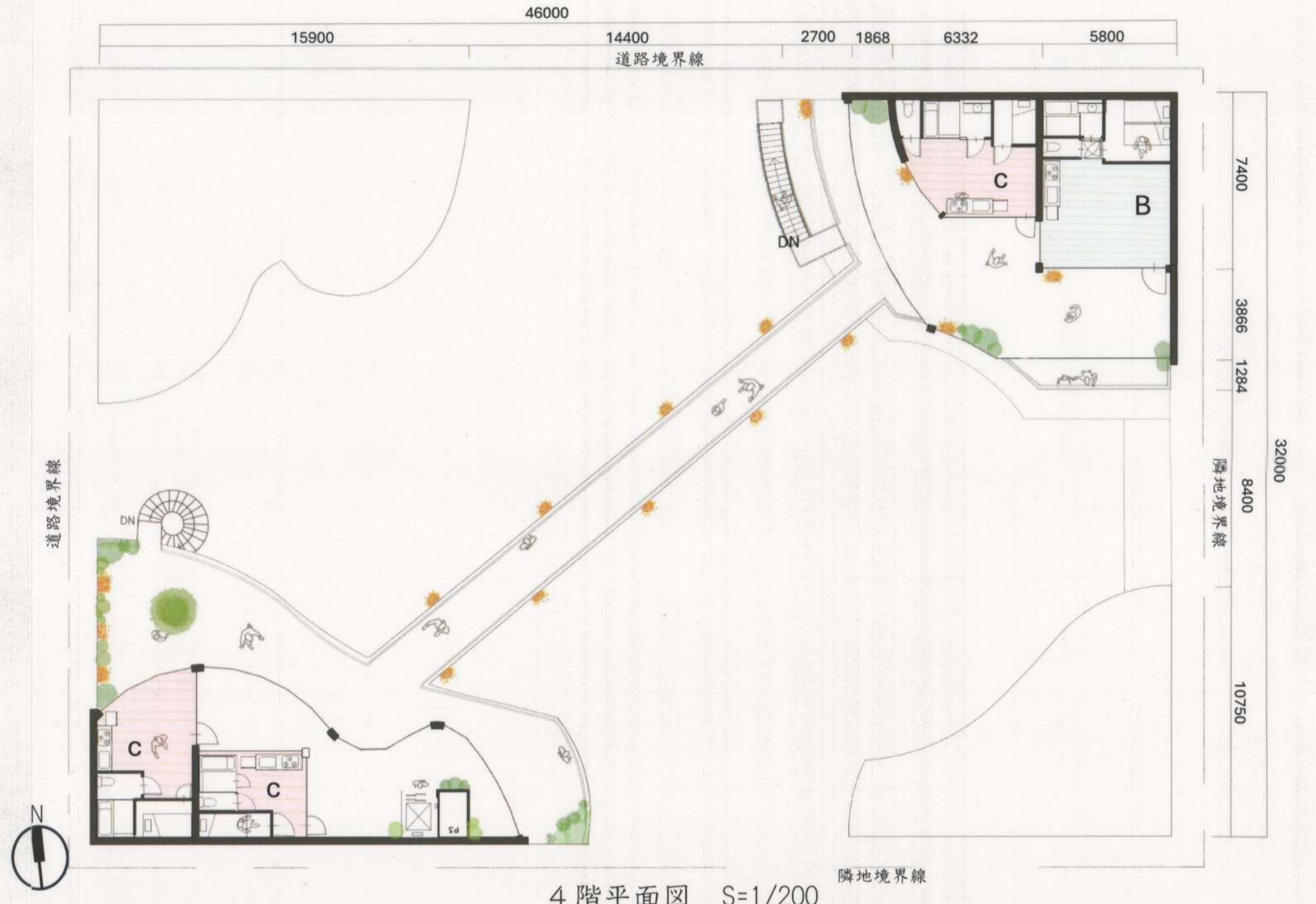


今は地形に寄り添わずに建てる

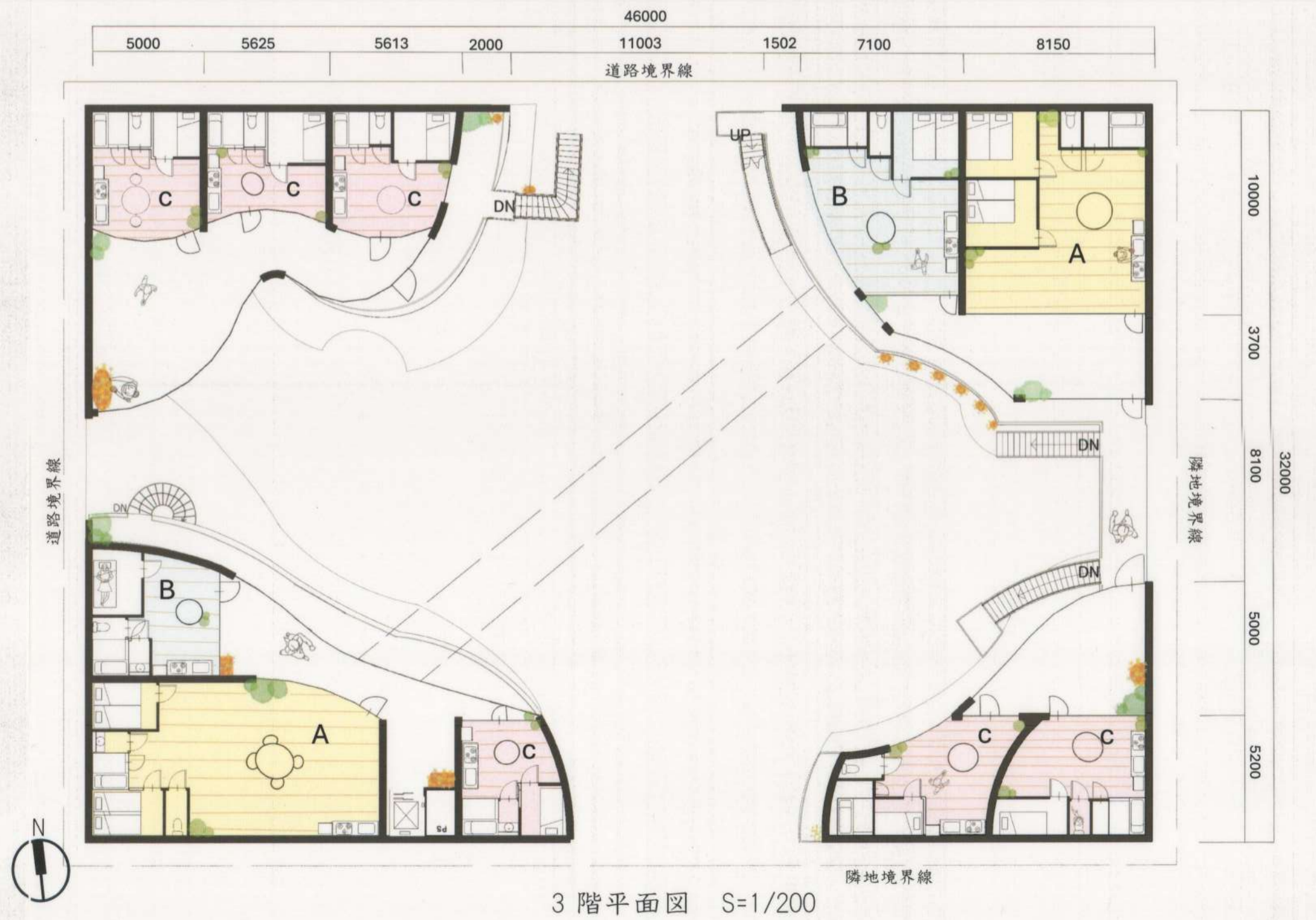
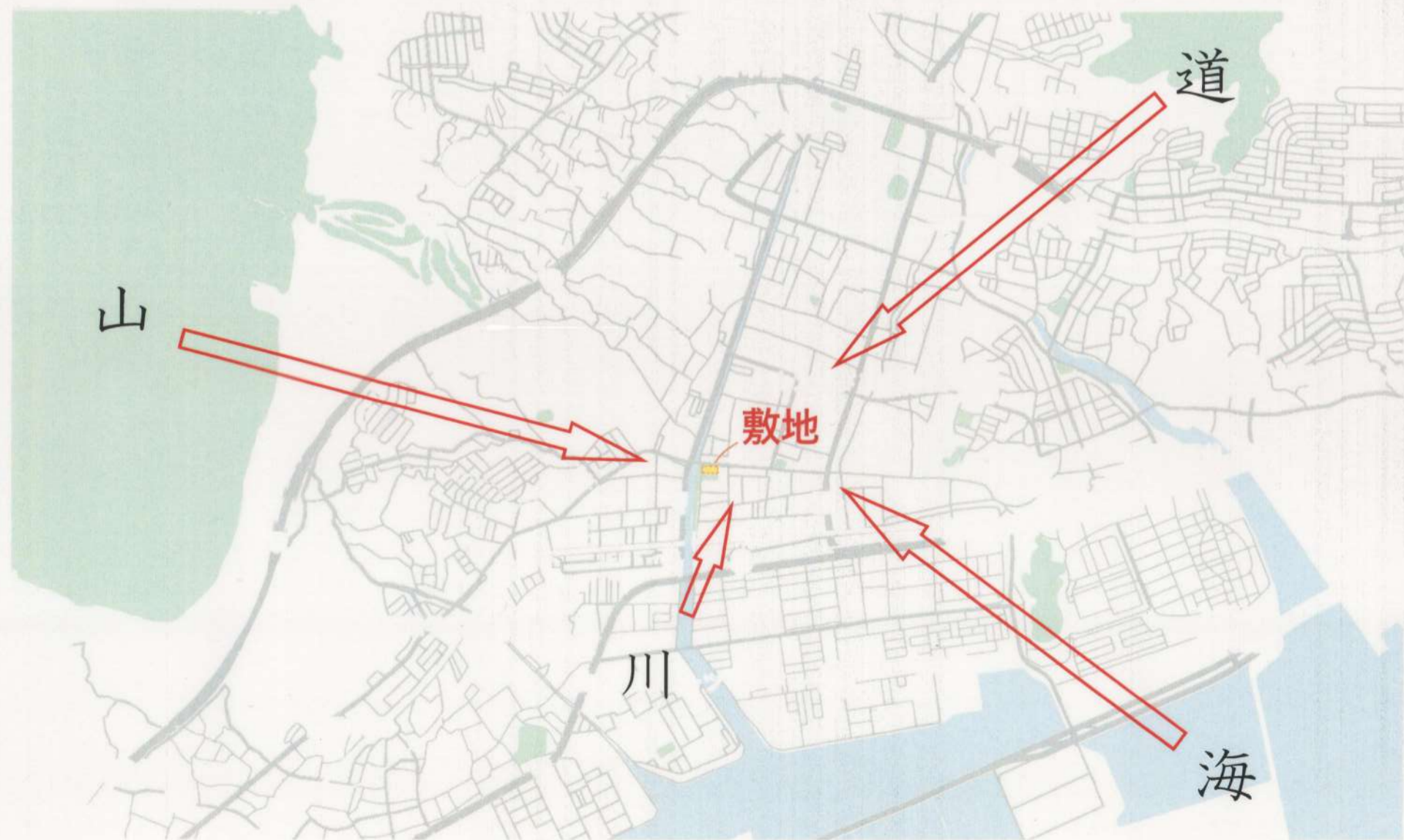


昔は地形に寄り添い、
程よい距離感が生まれる

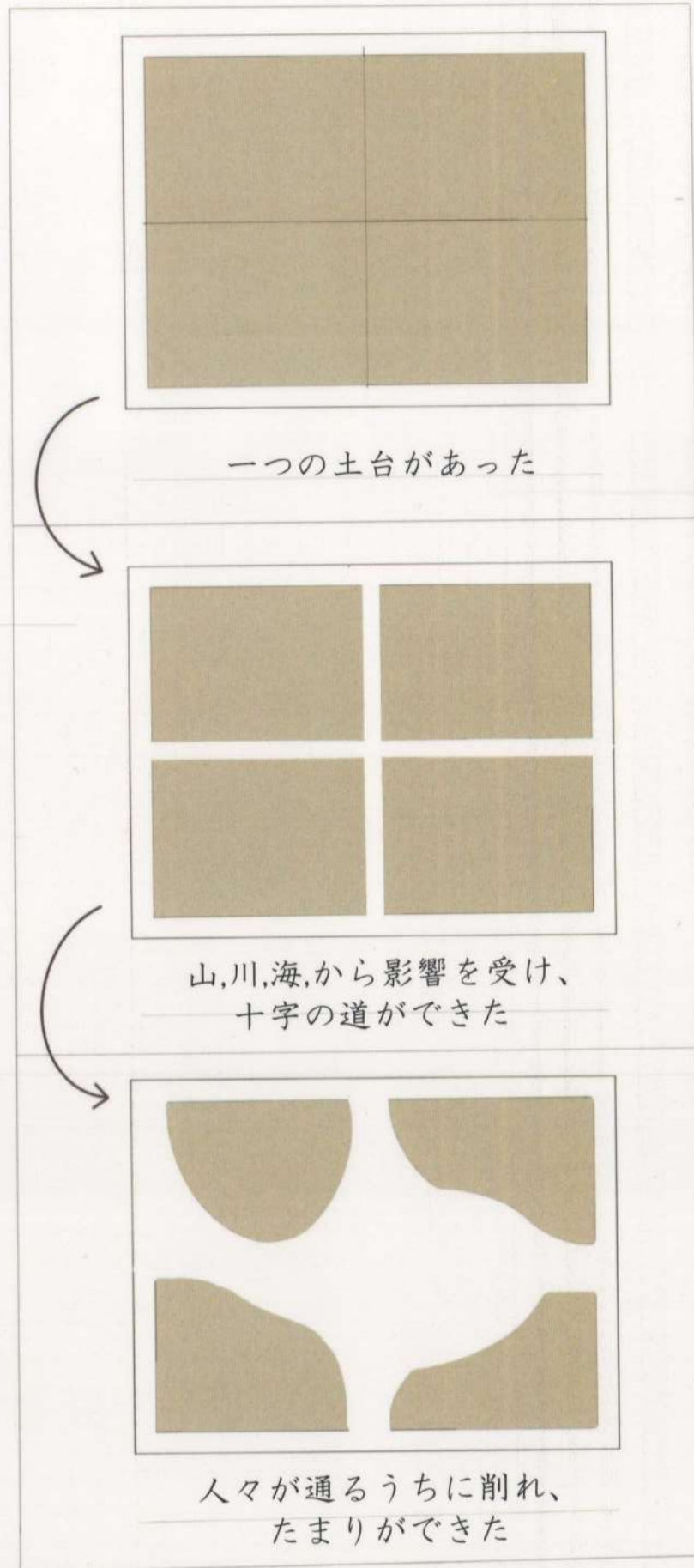
03 配置図



04 敷地との関係



05 ダイアグラム



06 階段と橋



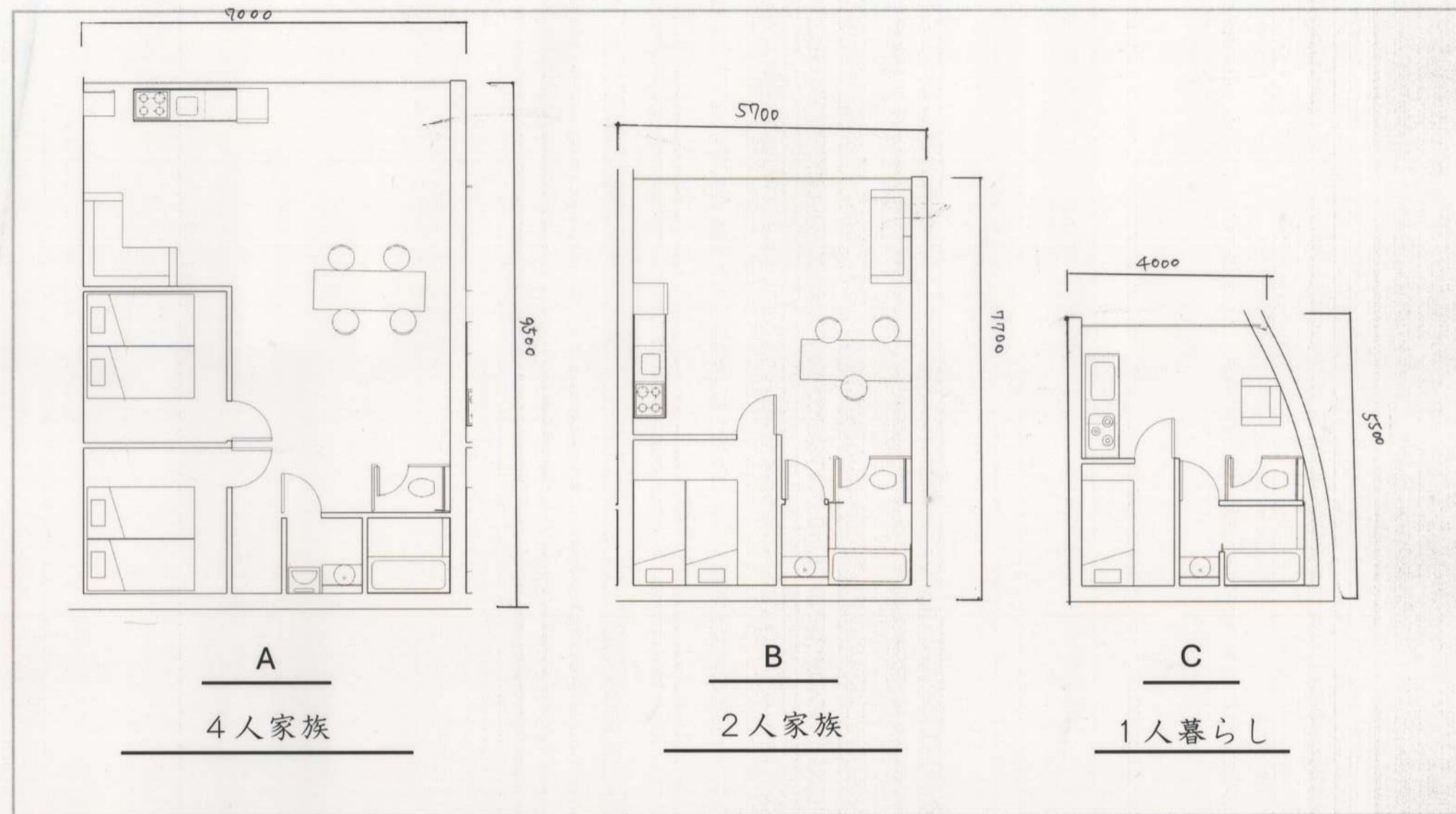
高さが変わり、暮らしの中に動きが生まれる
橋のたわみが住居同士をつなぐ

07 コミュニティガーデン

カフェから花屋さんに行く理由となる
人々の集いの場所となる



08 部屋の内観 (S=1/100)

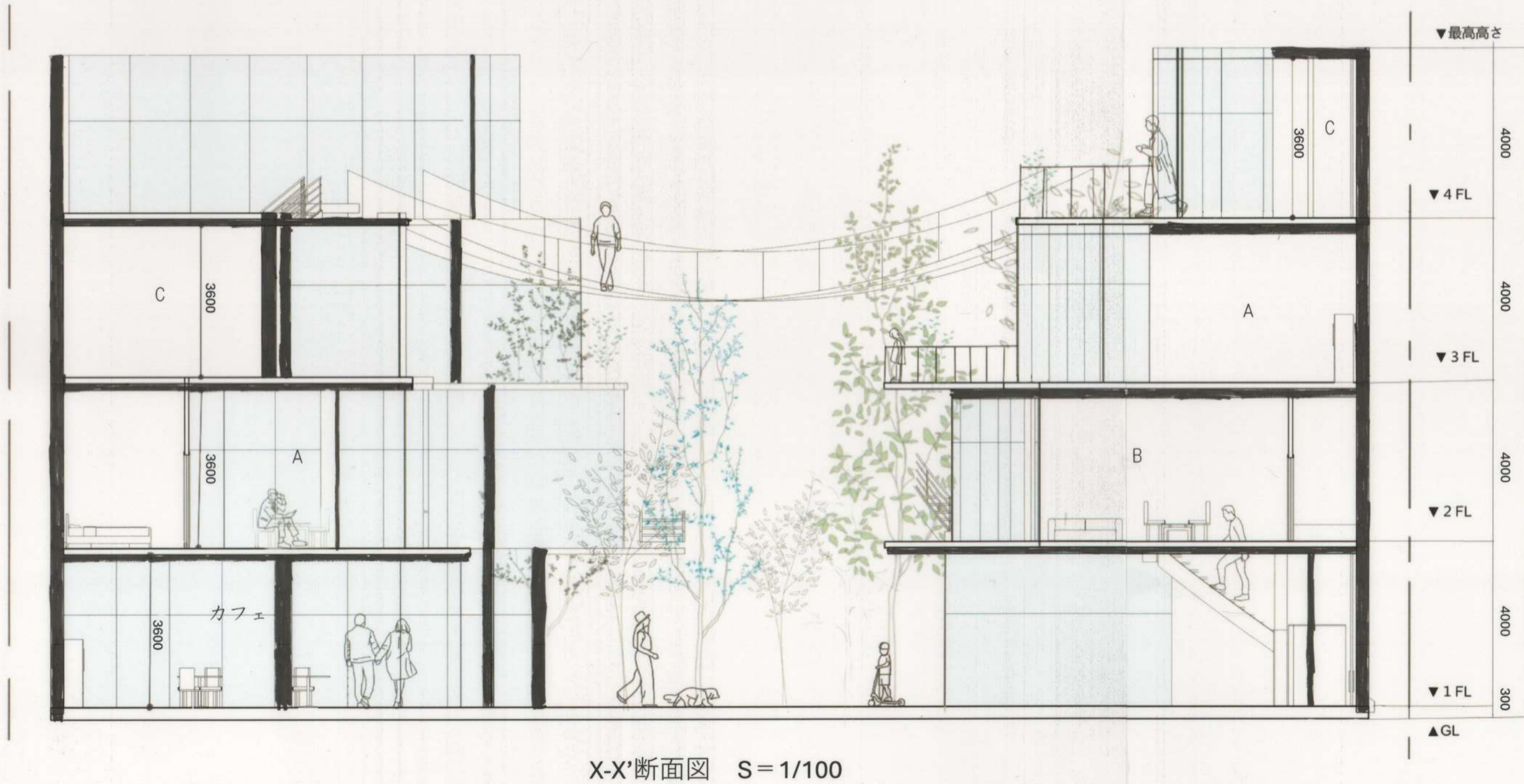


09 4階からの景色

橋のたわみが空間に裕やかな繋がりを生む



面積表	
	635㎡
床面積 4 F	250㎡
3F	475㎡
2F	635㎡
1F	242㎡
延べ床面積	1602㎡
建蔽率	38.90%
容積率	98.10%
敷地面積	1632㎡

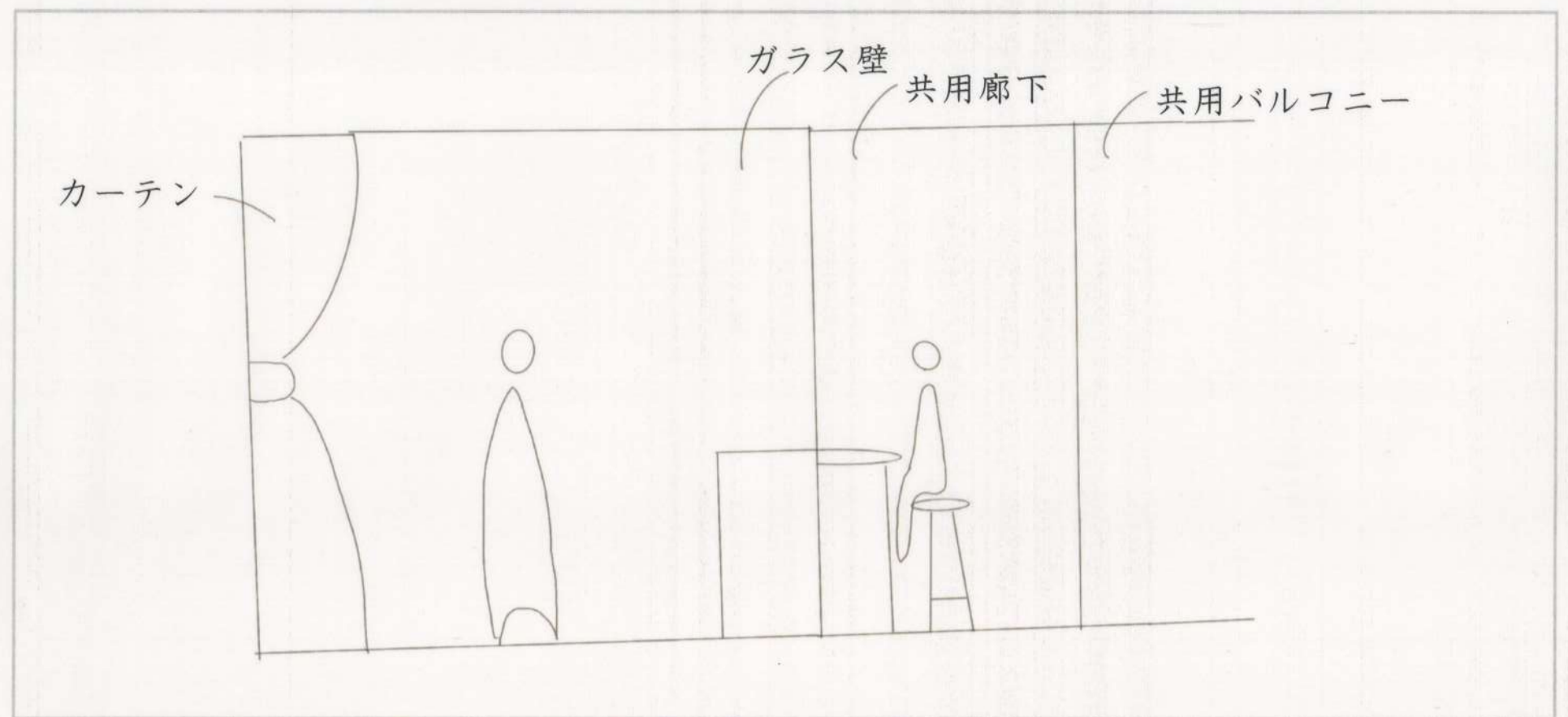


10 外観パース



内側に対して開くことで、
住人通しのつながりを生む

11 部屋と外の関係



12 模型写真



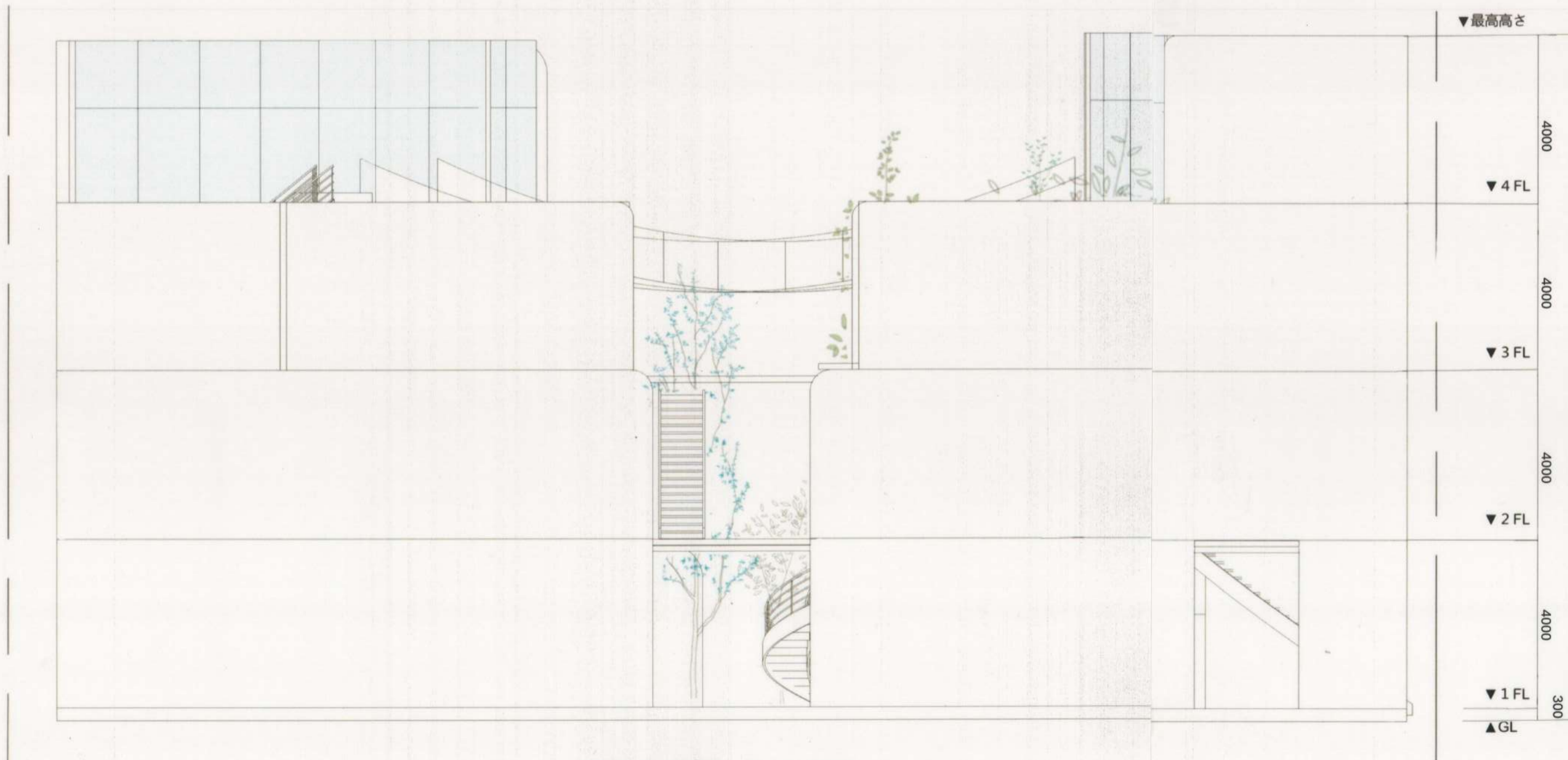
コミュニティガーデン



4階の住宅



花屋さん



西 立面図 S=1/100